

日本映画復興会議

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-12-9

グランディールお茶の水 301 号室

電話 080-5462-2389 (井上) FAX 03-6903-6051

Email jim@nefk.net

<http://nefk.net/>

2016 年 5 月 1 日

日本映画復興会議は、2015 年度第 6 回幹事会回幹事会（2016 年 3 月 3 日）において、今年度の日本映画復興賞を下記の通り決定しました。

2015 年の作品・活動を対象とする第 33 回日本映画復興賞においては、日本映画復興賞 1 件、奨励賞 3 件を贈呈するのに加え、2015 年に戦後 70 年の節目を迎える一方で安保法制成立により平和が脅かされかねない情勢に鑑み、特別に戦後 70 年日本映画平和賞を設け、2 件の贈呈を決定しました。

選出に当たっては、復興賞委員会における準備選考のほか、会員等からの推薦を受け、幹事会において慎重に検討いたしました。

賞の贈呈式および祝賀パーティーは、5 月 28 日（土）に NHK 青山荘（東京・表参道）において、午後 4 時から開催いたします。

第 33 回（2015 年度）日本映画復興賞受賞者

◎日本映画復興賞

・『薩ちゃん正ちゃん 戦後民主的独立プロ奮闘記』の池田博穂監督はじめスタッフ一同

◎戦後 70 年日本映画平和賞

・宝田 明氏

・映画『母と暮せば』

◎日本映画復興奨励賞

・『おかあさんの木』の磯村一路監督はじめスタッフ一同

・『首相官邸の前で』の小熊英二監督はじめスタッフ一同

・『子供たちの涙～日本人の父を探し求めて～』の砂田有紀監督はじめスタッフ一同

以上

【選評】

代表委員 桂壮三郎

日本映画復興会議は、幹事会等で度重なる選考と審議を重ねて、2015年の作品・活動を対象とする第33回（2015年度）日本映画復興賞における復興賞1件、復興奨励賞3件を決定いたしました。また、2015年は戦後70年目の年であり、日本映画復興会議の理念を生かし初めての日本映画平和賞を設け、数件の候補を慎重に検討し、2件の平和賞を決定いたしました。

まず、2015年の日本映画の現状を考察してみます。入場人員は166,630千人、興行収入は217,119百万円で、ともに前年比3%ほどの伸びです。全国スクリーン数は3,437スクリーンとなり、前年より73スクリーン増えています。公開本数は前年から邦画・洋画合わせて46本の減少です。2015年邦画は581本を公開しました。興行収入は120.367百万ですが、そのうち、興収10億円以上を上げた作品は39本で、この39本の映画で興収全体の74%（89,800百万）を占めています。興収10億円以下の作品は542本で、平均して1作品あたりの興収は約5.460万円になり、中小規模作品の収支は著しく厳しいと言わざるを得ません。また、ビデオソフト販売など2次使用からの製作費回収もDVD販売の不振により期待できません。現状の日本映画は一部の作品を除き依然厳しい環境下に置かれています。

それでは、第33回（2015年度）の日本映画復興賞、奨励賞、日本映画平和賞の選評を報告いたします。戦後、映画の民主化運動の戦いのなかで、企業に頼らず、本当に作りたい映画を作ろうと独立プロダクションを立ち上げた映画人の足跡を辿った『薩チャン正ちゃん 戦後民主的独立プロ奮戦記』を、全員一致で日本映画復興賞に決定いたしました。本作は、山本薩夫監督、今井正監督作品を中心に独立プロ作品の数々の名場面を活写しています。これら独立プロ作品の質の高さは当時の映画ファンを唖らせ、戦後の労働運動、平和運動、民主運動に大きな影響を与えたばかりでなく、日本映画の歴史にも大きな足跡を残しました。これらの独立プロ運動の苦難と輝かしい映像を綴った本作は、日本映画復興賞にふさわしいものです。

2015年は、戦後70年の節目を迎える一方で、安保法制（戦争法）が、改憲勢力により強行採決される事態を迎え、多くの国民はアベ政治に怒りの声をあげ始めました。その国民の声に寄り添い、一人の人間として、また優れた俳優として、戦争の悲惨さを語り継ぎ平和の思いを訴え続ける宝田明氏へ日本映画平和賞を決定いたしました。宝田氏は、水爆実験に抗議し核の脅威を警告した東宝映画「ゴジラ」で初主演を果たして以来、数多くの映画・演劇で活躍してきました。幼少時の宝田さんの戦争体験は戦争を許さない強い思いが感動を呼ぶなど、その活動は一人の映画人を超えて高く評価されています。

2 件目の日本映画平和賞は、松竹 120 周年記念作品として戦後 70 年に山田洋次監督が渾身の力を注いで演出した、映画『母と暮せば』に決定いたしました。小津安二郎、木下恵介をはじめ、数多くの松竹の映画人は反戦と平和、民主主義の作品を製作してきました。国民の反戦平和志向と共に歩んできた松竹映画の歴史は日本映画の歴史でもあります。そのなかでも山田洋次監督は、松竹の優れた伝統を引き継ぎ、現在の日本映画を牽引している第一人者でもあります。

最後に、日本映画復興奨励賞の受賞者をご紹介します。

まず、『おかあさんの木』の磯村一路監督はじめスタッフ一同に対し、日本映画復興奨励賞を決定いたしました。本作は、7 人の息子を戦争に奪われた一人の母親の痛恨の思いを感動的に描き、映画としても優れた作品であり戦後 70 年に最もふさわしい作品として奨励賞に選定いたしました。

次に、2012 年夏、首相官邸前で行われた原発政策への約 20 万人の抗議デモを記録したドキュメンタリー映画『首相官邸の前で』の小熊英二監督はじめスタッフ一同に対し奨励賞を決定いたしました。この市民の戦いの希望の瞬間を記録した価値ある作品に高い評価を与えるものです。小熊英二監督は、社会学者として積極的に脱原発運動に関わりメディアでも発言を続けている人で、初めての映像作品に取り組み、脱原発の仲間から多くの映像提供などの協力を得ながら、優れたドキュメンタリーを発表しました。

3 件目の日本映画復興奨励賞は、日本の戦時責任を問うドキュメンタリー映画『子供たちの涙～日本人の父を探し求めて～』の砂田有紀監督はじめスタッフ一同に決定いたしました。本作は、戦時中のインドネシアで、日本人の軍人・軍属とインドネシア系オランダ人女性の間生まれ、終戦後は母に連れられてオランダへと渡り、「敵国の子」として差別されるのをはじめ、さまざまな苦難を乗り越えて生きてきた人々を静かなタッチで感動的に描いています。戦争の非情さに心打たれる作品として高く評価されます。

最後に、受賞には至りませんでした。戦後 70 年を迎えた昨年、多くの優れた反戦映画が公開されました。中国残留孤児の父といわれた山本慈昭を描き話題を集めた「望郷の鐘 満蒙開拓団の落日」、人間爆弾と呼ばれた特攻機の隊員の悲劇を描いた「サクラ花―桜花最期の特攻―」、満州の国境で終戦を迎えた 15 歳の少年たちの悲劇を描いた「ソ満国境 15 歳の夏」等、記憶に留めておきたい作品です。また、日本を代表する女優・樹木希林を主演に、河瀬直美が監督した「あん」の創造性に対し日本映画復興会議は高い評価をいたしました。

昨年公開された全ての作品に敬意を示しつつ、2016 年度作品への期待を抱きながら、第 33 回（2015 年度）日本映画復興賞の選定を終了いたしました。

日本映画復興賞

『薩チャン正ちゃん 戦後民主的独立プロ奮闘記』の池田博穂監督はじめスタッフ一同

戦後の民主的独立プロの足跡をたどった本作品は、山本薩夫・今井正両監督を中心に製作された独立プロの数々の名作の素晴らしさを、若い世代も含めて改めて世に知らしめました。独立プロの奮闘が映画史のなかでも特筆すべき重要な役割を果たし、労働運動・平和運動・民主運動、そして観客の人生に計り知れない影響を与えたことを、豊富な映像・写真・資料と関係者のインタビューを駆使して明らかにしています。また、映画を取り巻く今日の困難な状況に向き合う希望と勇気を与えてくれる作品でした。その功績を讃え、頭記の賞を贈ります。

戦後 70 年日本映画平和賞

宝田 明氏

宝田氏は水爆実験に抗議し現代文明の傲慢に警鐘を鳴らす映画『ゴジラ』で初主演を果たして以来、数多くの映画や舞台に出演してきました。また近年は、戦争中に満州で育ち、そこで終戦を迎えた経験をもとに、反戦と平和を訴える活動に取り組み、安全保障関連法制についても反対の論陣を張り、そのような行動を人間としての責任だと語っています。その功績を讃え、ますますのご活躍を期待して、頭記の賞を贈ります。

戦後 70 年日本映画平和賞

映画『母と暮せば』

『母と暮せば』は、2015年の松竹120周年記念作品として製作されました。120年の歴史のなかで、松竹は小津安二郎、木下恵介をはじめ、反戦と平和、民主主義の作品を数多く世に送り出してきました。この山田洋次監督の作品は、その伝統を引き継ぐ名作です。また、戦後70年記念作品として、監督は生涯で最も大切な作品の一つとして製作に臨み、広島原爆を描く『父と暮せば』を書いた作家の故・井上ひさしさんに捧げる作品となっています。長崎を舞台に、戦争と原爆の悲劇と同時に人間の温かい愛情に満ちた絆を渾身の力で描き出しています。安全保障関連法制が強行採決により成立した現在の状況において、反戦と平和を希求する映画が少なからず作られましたが、そのなかでも『母と暮せば』は多くの国民に鑑賞された代表的な作品といえます。以上の功績を讃え、頭記の賞を贈ります。

日本映画復興奨励賞

『おかあさんの木』の磯村一路監督はじめスタッフ一同

東映の戦後70年記念作品として製作されたこの作品は、7人の息子を戦争にとられ、その帰りを待ち続けた母親を描き、戦争の悲惨さと母親たちの思いを感動的にスクリーンに表しました。安全保障関連法制の成立など日本が再び戦争への道を突き進んでいる状況のなかで、ひとたび戦争が起これば、自分の子どもが、自分たちが、どういうことになるのかを、見る者に考えさせるとても貴重な映画です。戦後70年記念にふさわしい作品を製作されたことを讃え、頭記の賞を贈ります。

日本映画復興奨励賞

『首相官邸の前で』の小熊英二監督はじめスタッフ一同

東日本大震災で起きた福島第一原子力発電所の大事故は、多くの日本人の原発に対する意識を変え、それは反原発デモの形で表明されることになりました。その行動は、マスコミの無視に近い態度とは裏腹に、時間とともに終息するどころか、毎週定期的に首相官邸前で開催される根気強い息の長い活動となっています。その変遷を、現場で撮影しネット上に公開された数多くの映像を駆使し、中心人物たちのインタビューを交えながら編集されたものが『首相官邸の前で』です。現代的な運動形成の過程を示すとともに、マスコミでは伝えられない現実を力強く提示しています。その功績を讃え、今後のますますの活躍を期待し、頭記の賞を贈ります。

日本映画復興奨励賞

『子供たちの涙～日本人の父を探し求めて～』の砂田有紀監督はじめスタッフ一同

第二次世界大戦中のインドネシアで、日本人の軍人・軍属とインドネシア系オランダ人女性との間に子供たちが産まれました。終戦後、父は日本に引き揚げ、母に連れられてオランダ統治下のインドネシアからオランダへと渡った子供たちは、「敵国の子」として差別されるのをはじめ、日系二世としてさまざまな苦難を乗り越えて生きてきました。マスメディアも含め、日本人の視野の外に置かれた日本の戦争が残した傷跡を、この映画は丹念に取材し、静かなタッチで伝えています。日本の戦時責任を改めて問い直す、この優れたドキュメンタリー映画の功績を讃え、今後の一層の活躍を期待して頭記の賞を贈ります。

〈参考〉

「日本映画復興会議」について

日本映画復興会議は、日本映画の文化的・産業的復興と民主的な再生をめざして活動を進めています。

日本映画復興会議は 1961 年、高度成長とは裏腹に映画観客動員数が激減する危機のなか、映演総連（映画演劇労働組合総連合＝現映演労連）、全映演（全国映画演劇労働組合連合）の呼びかけによって、独立プロ、普及事業者、鑑賞団体、作家等が参加し、設立されました。以来 50 年以上にわたり、時代ごとのさまざまなテーマに取り組んできました。

現在は、年 1 回の全国集会で映画界が直面する多様で複雑化する課題を分野の垣根を越えて共有することに努めるとともに、映画界の発展のための各種活動、「日本映画復興賞」の運営などを行っています。

〈2015 年度役員〉

代表委員 神山征二郎（神山プロダクション代表 映画監督）

桂 壮三郎（ゴーゴービジュアル企画代表取締役 映画プロデューサー）

事務局長 井上 徹（エイゼンシュテイン・シネクラブ代表 映画研究者）

「日本映画復興賞」について

故山本薩夫監督の発意により 1983 年から始まったもので、「平和と民主主義を守り、戦争に反対し、ヒューマニズムの理念に徹した日本映画の業績」を表彰する賞です。厳しい映画情勢のもと、製作・配給（普及）・興行・鑑賞などの各分野で、日本映画の産業的復興と文化的向上を進めるため、懸命の努力を続けている多くの人々に対し、そのたゆまぬ努力を積極的に評価し、激励する役割を果たしてきました。

毎年、日本映画復興会議幹事会において受賞者を決定し発表しています。

日本映画復興賞 受賞作品・団体・個人一覧 (1983～2015年)

□第1回 [1983年度]

- ◇復興賞・木下恵介監督
【映画『この子を残して』など戦後一貫した優れた業績にたいして】
- ◇奨励賞・乙羽信子氏
【日本初の反核映画『原爆の子』をはじめ、数多くの優れた日本映画に貢献】
- ◇奨励賞・人形アニメ『おこりじぞう』製作スタッフ一同
【反核平和の主題を優れた技術で豊かに表現した】

□第2回 [1984年度]

- ◇復興賞・該当者なし
- ◇奨励賞・小栗康平監督
【映画『伽耶子のために』の優れた演出】
- ◇奨励賞・記録映画『悪魔のミサイル・核トマホーク』『生きるための証言・いまヒロシマから』『海・いまトマホークが』『核戦争3分前！横田基地は…いま』の各製作スタッフ一同
- ◇奨励賞・広島国際アマチュア映画祭
【平和と生きることの尊さをモットーに映像文化の発展に貢献】
- ◇特別賞・渥美清氏
【映画『男はつらいよ』シリーズの主演者として】

□第3回 [1985年度]

- ◇復興賞・該当者なし
- ◇奨励賞・記録映画『戦場ぬ童』製作スタッフ一同
- ◇特別賞・故 浦山桐郎監督

□第4回 [1986年度]

- ◇復興賞・映画『キネマの天地』製作スタッフ一同
【日本映画の伝統を継承し発展させる情熱を込めた作品にたいして】
- ◇復興賞・映画『母さんの樹』製作スタッフ一同
【困難の自主製作・自主上映運動により闘う女性労働者のイメージを創造】
- ◇復興賞・記録映画『さくらんぼ坊や』6部作『アリサーヒトから人間へ』の製作スタッフ一同
【10年間にわたり優れた幼児教育実践を記

録した】

- ◇復興賞・田村高廣氏
【映画『春駒のうた』『海と毒薬』への貢献】
- ◇特別功労賞・木村荘十二監督
【日本映画の長老として戦後は教育、児童映画の発展に貢献した】

□第5回 [1987年度]

- ◇復興賞・該当者なし
- ◇奨励賞・親と子のよい映画をみる会〔親子映画運動〕
- ◇奨励賞・記録映画『ドキュメント三宅島』『怒りの三宅島』の製作スタッフ一同

□第6回 [1988年度]

- ◇復興賞・新藤兼人監督
- ◇奨励賞・日本電波ニュース社
- ◇奨励賞・千野皓司監督
- ◇奨励賞・全国農村映画協会
- ◇奨励賞・運輸一般
- ◇奨励賞・記録映画『足跡』の国鉄労働組合と斉藤茂夫監督ほか製作スタッフ一同

□第7回 [1989年度]

- ◇復興賞・該当者なし
- ◇奨励賞・国立市職員組合内「原爆の映画を毎月上映する会」
- ◇奨励賞・映画『さくら隊散る』福井県下100カ所上映運動
- ◇特別賞・日本記録映画作家協会
【創立35年間の活動にたいして】

□第8回 [1990年度]

- ◇復興賞・該当者なし
- ◇奨励賞・記録映画『ビキニの海は忘れない』製作スタッフ一同
- ◇特別賞・今井正監督

□第9回 [1991年度]

- ◇復興賞・該当者なし
- ◇奨励賞・アニメ映画『うしろの正面だあれ』の有原誠治監督ほか製作スタッフ一同
- ◇奨励賞・大阪シナリオ学校
- ◇奨励賞・映画『戦争と青春』の市民プロデューサー運動

◇奨励賞・映画『北緯 15° のデュオ』の根本順善監督ほか製作スタッフ

□第 10 回 [1992 年度]

- ◇復興賞・該当者なし
- ◇奨励賞・映画『シコふんじゃった』の周防正行監督ほか製作スタッフ
- ◇奨励賞・記録映画『同姓同名者からの手紙』の金高謙二監督ほか製作スタッフ
- ◇特別賞・故 大黒東洋士氏

□第 11 回 [1993 年度]

- ◇復興賞・映画『学校』の山田洋次監督ほかスタッフ一同
- ◇奨励賞・神山征二郎監督ほか関係スタッフ
- ◇奨励賞・アニメ映画『つるにのって』のピース・アニメの会の運動
- ◇功労賞・糸屋寿雄氏
- ◇感謝状・故 川喜多かしこ氏

□第 12 回 [1994 年度]

- ◇復興賞・該当者なし
- ◇奨励賞・中山節夫監督

□第 13 回 [1995 年度]

- ◇復興賞・堀川弘通監督
- ◇奨励賞・星山 圭監督
- ◇奨励賞・近藤喜文監督
- ◇奨励賞・高橋一郎監督を中心とした製作集団

□第 14 回 [1996 年度]

- ◇復興賞・該当者なし
- ◇奨励賞・『人間の翼—最後のキャッチボール』の岡本明久監督はじめスタッフ一同
- ◇奨励賞・『金色のクジラ』の大澤 豊 監督はじめスタッフ一同
- ◇奨励賞・記録映画『人間の住んでいる島』の橋祐典監督をはじめ製作委員会一同
- ◇奨励賞・映画鑑賞団体全国連絡会議 [全国映画連]
- ◇感謝状・故 渥美 清氏

□第 15 回 [1997 年度]

- ◇復興賞・熊井 啓監督
- ◇特別賞・岩波ホールの高野悦子総支配人ほかスタッフ一同
- ◇特別賞・樋口源一郎監督
- ◇特別賞・スタジオジブリ・スタッフ一同
- ◇奨励賞・映画『誘拐』の大河原孝夫監督ほか

スタッフ一同

- ◇奨励賞・岡山市職員労働組合
- ◇奨励賞・『PiPi ピピ とべないホテル』石川県上映をすすめる会
- ◇奨励賞・平和映画を上映する会 (多摩市)
- ◇功労賞・能登節雄氏

□第 16 回 [1998 年度]

- ◇復興賞・該当者なし
- ◇奨励賞・松井久子氏
- ◇奨励賞・映画『カメジロー・沖縄の青春』製作上映委員会
- ◇奨励賞・映画『どんぐりの家』全国上映実行委員会
- ◇奨励賞・人吉くま映画文化協会
- ◇感謝状・故 木下恵介氏

□第 17 回 [1999 年度]

- ◇復興賞・該当者なし
- ◇奨励賞・映画『チンパオ』の中田新一監督
- ◇奨励賞・映画『アイ・ラブ・ユー』の大澤豊監督・米内山明宏監督とスタッフ一同
- ◇奨励賞・記録映画『日独裁判官物語』製作普及 100 人委員会と片桐直樹監督ほかスタッフ一同
- ◇奨励賞・京都映画サークル協議会
- ◇特別賞・羽田澄子監督
- ◇特別賞・岡崎宏三氏
- ◇感謝状・故 管家まり氏

□第 18 回 [2000 年度]

- ◇復興賞・映画『郡上一揆』
- ◇奨励賞・映画『ナビィの恋』の中江裕司監督ほかスタッフ一同
- ◇奨励賞・阿部 勉応援団
- ◇奨励賞・映画『アイ・ラブ・ユー』山形県下 44 市町村上映運動
- ◇奨励賞・松竹労働組合大船分会の仲間たち
- ◇特別賞・株式会社近代映画協会
- ◇特別賞・共同映画株式会社

□第 19 回 [2001 年度]

- ◇復興賞・映画『ホテル』
- ◇奨励賞・『日本鬼子』製作委員会
- ◇奨励賞・映画『チンパオ』上映推進 1000 人委員会 酒井哲雄氏
- ◇特別賞・映画演劇労働組合総連合 [映演総連]
- ◇感謝状・故 伊藤武郎氏

□第20回 [2002年度]

- ◇復興賞・羽田澄子氏
- ◇奨励賞・映画『阿弥陀堂だより』の小泉堯史監督はじめスタッフ一同
- ◇奨励賞・映画『住井すゑ 百歳の人間宣言』の橋祐典監督はじめスタッフ一同
- ◇特別賞・映画センター全国連絡会議

□第21回 [2003年度]

- ◇復興賞・該当者なし
- ◇奨励賞・記録映画『延安の娘』の池谷 薫 監督はじめスタッフ一同
- ◇奨励賞・記録映画『ヒバクシャ～世界の終わりに』の鎌仲ひとみ監督はじめスタッフ一同
- ◇奨励賞・記録映画『風の舞 闇を拓く光の詩』の宮崎信恵監督はじめスタッフ一同
- ◇奨励賞・映画『精霊流し』の田中光敏監督
- ◇奨励賞・忍足亜希子氏
- ◇特別賞・鈴木文夫氏

□第22回 [2004年度]

- ◇復興賞・黒木和雄氏
- ◇復興賞・鈴木敏夫氏
- ◇復興賞・桂壮三郎氏
- ◇奨励賞・佐々部清氏
- ◇奨励賞・映画『草の乱』の自主製作上映運動
- ◇奨励賞・記録映画『熊笹の遺言』今田哲史監督

□第23回 [2005年度]

- ◇第1回日本映画復興大賞・新藤兼人氏
- ◇復興賞・該当者なし
- ◇奨励賞・『Little Birds イラク 戦火の家族たち』の綿井健陽監督
- ◇奨励賞・『映画 日本国憲法』のジャン・ユンカーマン監督
- ◇奨励賞・『にがい涙の大地から』の海南友子監督
- ◇奨励賞・『時代を撃て・多喜二』の池田博穂監督
- ◇奨励賞・NPO 法人 市民シアター・エフ
- ◇奨励賞・「アンゼラスの鐘」製作を支援するナガサキの会
- ◇感謝状・故 樋口源一郎氏

□第24回 [2006年度]

- ◇復興賞・『蟻の兵隊』の池谷薫監督
- ◇復興賞・香川京子氏
- ◇復興賞・㈱マツダ映画社

- ◇復興賞・李鳳宇氏
- ◇奨励賞・『三池 終わらない炭鉱の物語』の熊谷博子監督
- ◇感謝状・故 田村高廣氏

□第25回 [2007年度]

- ◇復興賞・大澤 豊氏
- ◇復興賞・高野悦子氏
- ◇復興賞・三國連太郎氏
- ◇奨励賞・井筒和幸氏
- ◇奨励賞・柴田昌平氏
- ◇奨励賞・山本保博氏

□第26回 [2008年度]

- ◇復興賞・『母べえ』山田洋次監督ほかスタッフ一同
- ◇復興賞・神山征二郎氏
- ◇奨励賞・『ブタがいた教室』の前田 哲監督
- ◇奨励賞・東北4県における映画『ふみ子の海』の上映運動
- ◇感謝状・故 杉崎光俊氏

□第27回 [2009年度]

- ◇復興賞・映画『沈まぬ太陽』
- ◇復興賞・山本洋子氏
- ◇復興賞・『いのちの山河～日本の青空Ⅱ』製作委員会
- ◇奨励賞・『荒木栄の歌が聞こえる』製作委員会
- ◇奨励賞・橋本信一氏

□第28回 [2010年度]

- ◇復興賞・仲代達矢氏
- ◇復興賞・『アンダンテ～稲の旋律～』の金田敬監督はじめスタッフ一同
- ◇復興賞・加藤周一映画製作実行委員会
- ◇奨励賞・映画『月あかりの下で ある定時制高校の記憶』の太田直子監督
- ◇奨励賞・映画『トロッコ』の川口浩史監督はじめスタッフ一同
- ◇奨励賞・映画『パートナーズ』の下村優監督はじめスタッフ一同
- ◇特別賞・故 橋 祐典氏

□日本映画復興会議50周年記念復興賞
[2010年度]

- ◇新藤兼人監督
- ◇山田洋次監督
- ◇山田和夫氏

□第 29 回 [2011 年度]

- ◇復興賞・映画『一枚のハガキ』の新藤兼人監督はじめスタッフ一同
- ◇復興賞・西田敏行氏
- ◇奨励賞・映画『ミツバチの羽音と地球の回転』（鎌仲ひとみ監督）
- ◇奨励賞・映画『大津波のあとに』（森元修一監督）および『槌音』（大久保愉伊監督）
- ◇奨励賞・映画『がんばっぺ フラガール！～フクシマに生きる。彼女たちのいま～』（小林正樹監督）
- ◇奨励賞・映画『あぜみちジャンピンッ！』の西川文恵監督はじめスタッフ一同
- ◇特別賞・故 武田 敦氏

□第 30 回 [2012 年度]

- ◇復興賞・映画『いわさきちひろ～27 歳の旅立ち～』（海南友子監督）
- ◇奨励賞・映画『希望の国』の園子温監督はじめスタッフ一同
- ◇奨励賞・映画『放射線を浴びた [X 年後]』の伊東英朗監督はじめスタッフ一同
- ◇奨励賞・中津川映画祭実行委員会
- ◇特別賞・故 南 文憲氏

□第 31 回 [2013 年度]

- ◇復興賞・映画『少年 H』の降旗康男監督はじめスタッフ一同
- ◇復興賞・映画『標的の村』の三上智恵監督
- ◇復興賞・映画『ひまわり 沖縄は忘れないあの日の空を』の及川善弘監督はじめスタッフ一同
- ◇奨励賞・映画『遺体 明日への十日間』の君塚良一監督はじめスタッフ一同
- ◇奨励賞・映画『渡されたバトン さよなら原発』の池田博穂監督はじめスタッフ一同
- ◇奨励賞・映画『約束 名張毒ぶどう酒事件 死刑囚の生涯』の齊藤潤一監督はじめスタッフ一同
- ◇奨励賞・映画『原爆症認定集団訴訟の記録 おりづる』の有原誠治監督
- ◇奨励賞・映画『食卓の肖像』の金子サトシ監督

□第 32 回 [2014 年度]

- ◇復興賞・高畑勲監督
- ◇復興賞・大林宣彦監督
- ◇奨励賞・映画『WOOD JOB!～神去なあなあ日常～』の矢口史靖監督はじめスタッフ一同
- ◇奨励賞・映画『アフガニスタン干ばつの大地に用水路を拓く治水技術 7 年の記録』の谷津賢二監督はじめスタッフ一同

- ◇奨励賞・映画『ジョバンニの島』の西久保瑞穂監督はじめスタッフ一同

□第 33 回 [2015 年度]

- ◇復興賞・『薩ちゃん正ちゃん 戦後民主的独立プロ奮闘記』の池田博穂監督はじめスタッフ一同
- ◇戦後 70 年日本映画平和賞・宝田 明氏
- ◇戦後 70 年日本映画平和賞・映画『母と暮せば』
- ◇奨励賞・『おかあさんの木』の磯村一路監督はじめスタッフ一同
- ◇奨励賞・『首相官邸の前で』の小熊英二監督はじめスタッフ一同
- ◇奨励賞・『子供たちの涙～日本人の父を探し求めて～』の砂田有紀監督はじめスタッフ一同